

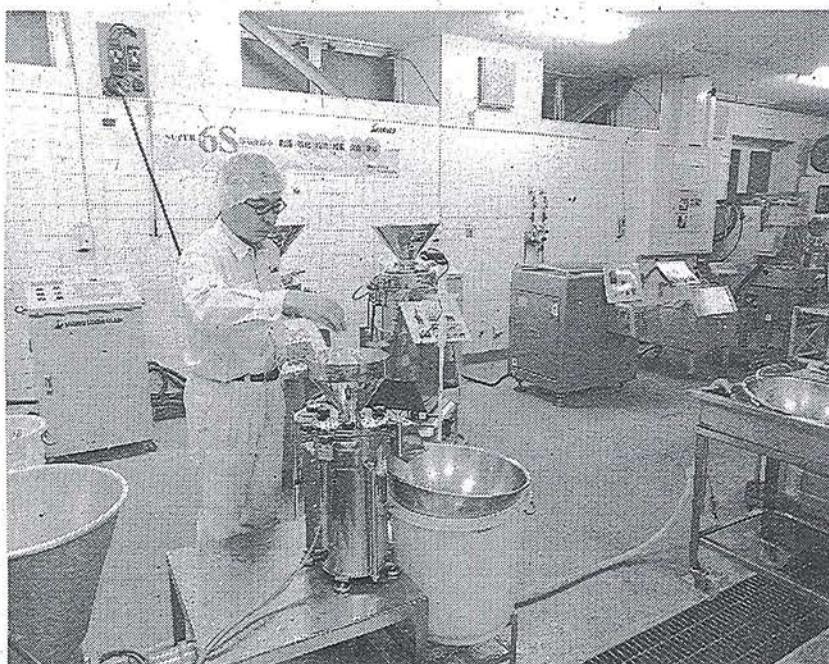
増幸産業 (川口市)



「増幸産業」が誇る国内最高レベルの超微粒粉碎技術は、工業材料から食品、医薬品業界と、あらゆる産業を支えている。同社の石臼式超微粒粉碎機に装備された「無気孔砥石(といし)」は、世界12カ国で特許を取得。常に新技術の開発に挑戦し続ける同社には、先祖伝来の「不可能を可能にする」チャレンジ精神が息づいている。

■最古の原理で最新技術
「確かに石臼は3千年前からある古い原理で、古きさいイメージがある。でも、うちの技術は、最古の原理を使った最新の技術なんです」

同社の数ある粉碎機の中でも中核をなす石臼式超微粒粉碎機「スーパーマスコロイダー」。増田幸也社長(57)は、そう言って胸を張った。



実験、研究の積み重ねが、最高レベルの粉碎技術を維持している=川口市本町の研究室

造にこそ最先端の技術がある。

(大出行秀)

通常、石臼の元になる砥石は、気孔が40%程度占めている。気孔がある石臼を高速回転せると、

■「自分で作ればいい」
無気孔グラインダーの開発は、東大の研究所から「石炭と重油を混ぜたものを微粉碎したい」と頼まれたのがきっかけだった。依頼

構造の砥石を開発。物質のナノ化を可能とする「無気孔砥石(グラインダー)」の誕生だつた。

「ダイヤモンド以外のすべての物質」を超微粒化する。その技術は「ナノ級(百万分の1ミリ)」の世界。川口市の粉碎機専門メ

は、粉砕の途中に熱膨張で割れてしまつた。割れない砥石を探したが、

「無いなり自分で作ればいい」。

先代社長の一言で、同社の試行錯誤が始まった。砥石が割れる原因を突き止め、実験データを取りながら、割れない砥石作りを模索。ついに、気孔に圧力をかけて穴埋めするなどの方法で無気孔の砥石を作り出す技術を開発した。

同社の粉碎機は、石臼式粉碎機のほか、超精密カッティング機、衝撃式粉碎機、気流式粉碎機など多様な種類をそろえる。粉碎する

ナノレベルに物質を粉碎

現在、用途を合わせて150種類ものグライダードを用意。回転数も毎分1万2千回転まで上げ、石臼の間隔も、微粒化の度合いに応じて自由に調整できるようになつた。改良の積み重ねが、「物質を融けるように感じるほど超微粒化

が、土地は非課税です。株や投資信託をはじめとした有価証券は非課税で、その売買にかかる手数料に課税されます。

プリペイドカードや商品

不可能を可能へ 挑戦続く



スーパーマスコロイダーの「心臓部」
となる無気孔グラインダー

「粉碎機のプロとして、顧客に頼まれたことを『できない』とは言いたくない」(増田社長)。そのチャレンジ精神は、江戸時代末、当時不可能とされた大砲の铸造を成し遂げた先祖から、脈々と受け継がれているものだ。

铸造業から始まった従業員25人の町工場。「小さな企業になろう」が合言葉。増田社長は「磨碎技術で世界に貢献し、幸福を創造する会社にしていきたい」と強調した。

会社概要	
【社名】増幸産業株式会社	【本社・工場】川口市本町1-12-24
【事業】超微粒粉碎機、精密カッティング機、	【電話】048-434-3222
【代表者】増田幸也	【代表取締役社長】増田幸也
【従業員】25人	【売上】5億5千万円
【創立】1922年4月	【賞】2004年創業の铸物業に関する国際規格ISO9001を取得。

マスク

消費税がかからないのは?

Q 来年4月から消費税率が上がる予定ですが、消

費される予定です。家計への影響は大きいといえます

や、教科書以外の教材・教具の代金には課税されます。

医療・介護では公的健康保険が適用される医療費や出産費用のほか、公的介護

的です。私たちの基本は、自分で手作りです。自分で図面を引いて装置を作り、顕微鏡を覗きながら電気配線を

心です。私たちの基本は、溢れんばかりの知的好奇心をじうやつ満たしていくか

過剰消費で膨ら